

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成24年9月5日(水)～20日(木)

山形/モニター世帯数: 515世帯
有効回答数: 490世帯(回答率: 95.1%)
秋田/モニター世帯数: 435世帯
有効回答数: 367世帯(回答率: 84.4%)

消費指数

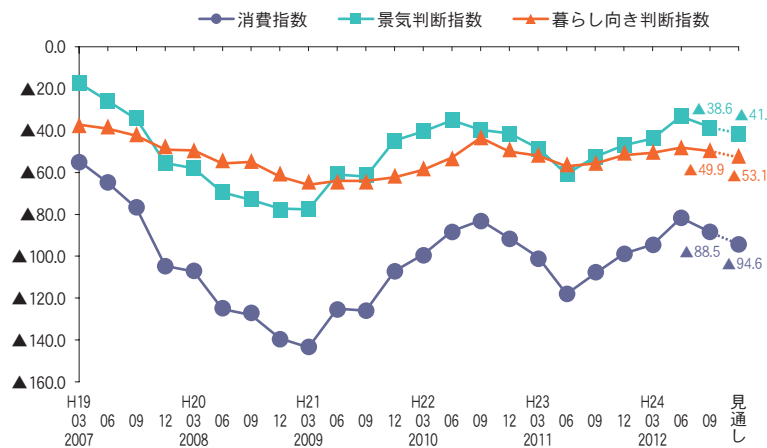
第25回 山形県の家計消費動向調査

～回復は4期連続でストップし、消費マインドは低下傾向～

消費指数は▲88.5(前期比7.1ポイント下落)となり、回復は4期連続でストップした。内訳として景気判断指数が▲38.6(前期比5.4ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲49.9(前期比1.7ポイント下落)といずれも前期を下回っている。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲94.6(今回調査比6.1ポイント下落)と更に悪化の見通し。内訳として景気判断指数が▲41.5(今回調査比2.9ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲53.1(今回調査比3.2ポイント下落)といずれも悪化の見通しで、回復を続けていた消費マインドに低下傾向が見られる。

図1 山形 景気判断指数の推移



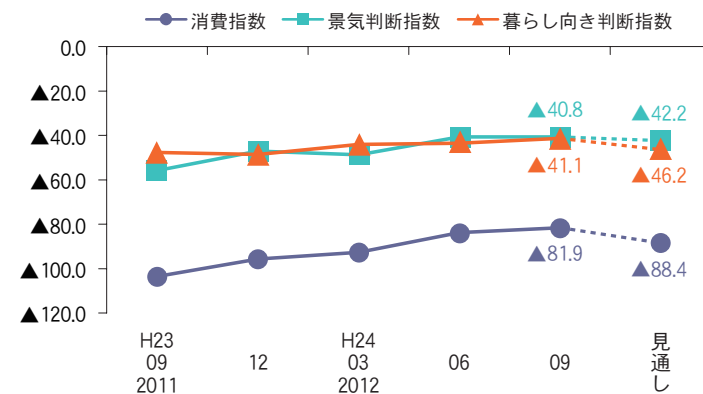
第5回 秋田県の家計消費動向調査

～4期連続の上昇ながらマインドの改善は小幅～

消費指数は▲81.9(前期比1.8ポイント上昇)と4期連続の上昇ながら、改善幅は小幅にとどまった。内訳をみると、景気判断指数が▲40.8(前期比0.5ポイント下落)と2期ぶりに前期を下回り、一方、暮らし向き判断指数は▲41.1(前期比2.3ポイント上昇)と3期連続で前期を上回っている。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲88.4(今回調査比6.5ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳としては景気判断指数が▲42.2(今回調査比1.4ポイント下落)、暮らし向き判断指数も▲46.2(今回調査比5.1ポイント下落)と共に悪化の見込みで、消費マインドの改善が一服する見通しである。

図2 秋田 景気判断指数の推移



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の指数は▲38.6(前期比5.4ポイント下落)となり、回復は4期連続でストップした。指数を形成する3つの指数については、「**景気(県内)**」が▲11.5(前期比1.4ポイント下落)、「**雇用環境**」が▲15.2(前期比2.0ポイント下落)、「**物価(日用品)**」が▲11.9(前期比2.0ポイント下落)とすべてにおいて悪化となり、県内の景気や雇用環境、また物価上昇への警戒心が強まっている

秋田の指数は▲40.8(前期比0.5ポイント下落)と小幅ながら2期ぶりの悪化となった。個別指数をみると、「**景気(県内)**」が▲13.8(前期比0.7ポイント上昇)、「**雇用環境**」が▲16.6(前期比0.3ポイント上昇)と引き続き前期を上回り、やや厳しさが緩和しているものの、「**物価(日用品)**」が▲10.4(前期比1.5ポイント下落)と前期を下回り、物価の上昇感が再び強まっている。

図3 山形 景気判断指数(内訳)の推移

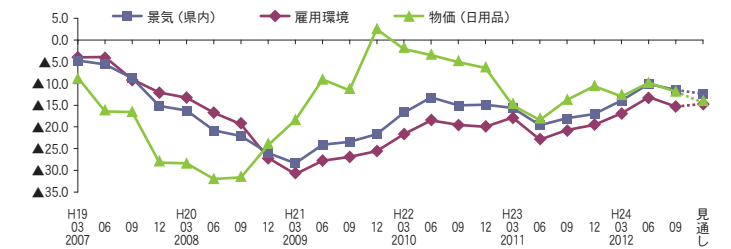
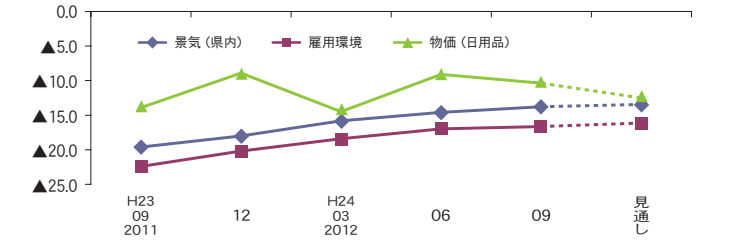


図4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



暮らし向き判断

山形の指数は▲49.9(前期比1.7ポイント下落)となり回復は4期連続でストップした。指数を形成する4つの指数については、「**世帯収入**」は▲12.7(前期比1.5ポイント下落)、「**保有資産**」は▲13.4(前期比±0)、「**お金の使い方**」は▲9.1(前期比0.2ポイント上昇)、「**暮らしのゆとり**」は▲14.7(前期比0.4ポイント下落)となり、特に「**世帯収入**」が悪化した。

秋田の指数は▲41.1(前期比2.3ポイント上昇)と3期連続で改善となった。個別指数をみると、「**保有資産**」が▲12.9(前期比0.7ポイント下落)と僅かに前期を下回ったものの、「**世帯収入**」が▲10.3(前期比1.0ポイント上昇)、「**お金の使い方**」が▲5.1(前期比0.9ポイント上昇)、「**暮らしのゆとり**」が▲12.8(前期比1.1ポイント上昇)といずれも小幅ながら前期を上回っている。

図5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

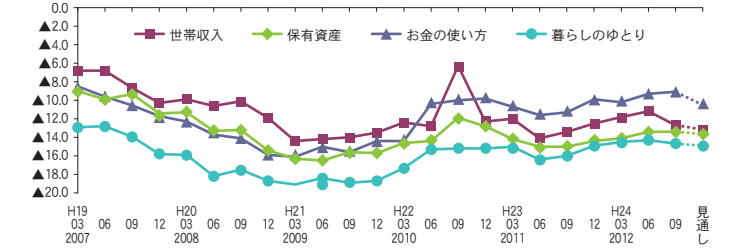
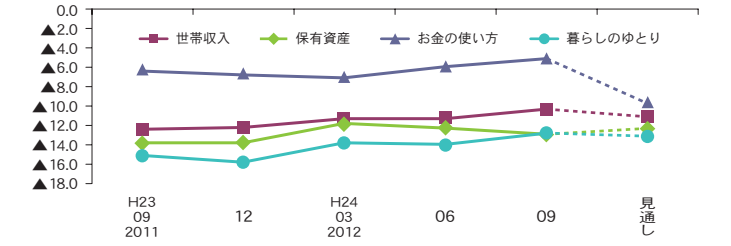


図6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が492千円と前年同期比で6千円の減少となり、世帯主及び世帯員の定例給与の減少が主要因となっている。一方、支出面でも420千円と前年同期比で14千円減少となっている。内訳をみると、「税金、各種保険料支払い(給料天引き以外)」が11千円増加した一方で、「小遣い、その他」が11千円減少した。その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は85.3%となり、前年同期比1.7%の減少となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が452千円となり、前年同期に比べて19千円の減少となった。これは「公的年金給付」などの増加があったものの、世帯主及び世帯員の「勤労収入」が減少したことが主たる要因である。一方、支出面では支出合計が390千円となり、前年同期に比べて16千円の減少となった。これは「金融商品2(投資信託、変額・定期年金保険)」と「借入金返済1(住宅ローン)」で各6千円増加した一方で、「小遣い、その他」で12千円減少したことなどが主な要因となっている。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は86.3%となり、前年同期(86.2%)とほぼ同様の水準となっている。

図7 山形 消費性向の推移

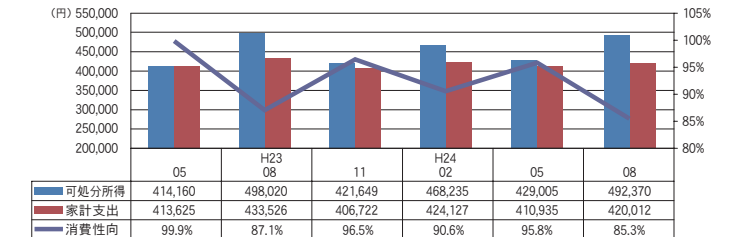


図8 秋田 消費性向の推移

